

第55回 岐阜県医学検査学会

平成29年3月12日

多治見市・セラミックパークMINO

平成29年3月12日に多治見市、セラミックパークMINOを会場として第55回岐阜県医学検査学会が開催されました。早春の暖かい日差しの中、140名を超える参加者を迎え盛況のうちに会を終えることができました。

今回は若い先生方にも座長をお願いし、そつなくこなしていただき感謝しています。

参加者の中には新たに認定技師となった先生方の講演を目当ての若い技師も複数みえたとのこと。学会終了後には他部門の認定技師取得の先生の話も聞きたいとの声もありました。講師の体験を通しての具体的な説明は、多くの参加者の将来目標として位置づけられたのではないのでしょうか。

市民公開講座は温泉博士として知られている古田先生(下呂発温泉博物館名誉館長)が自身の旅行先での写真をとりいれての温泉巡り話しなど、入浴するだけでなく温泉は風景と共に自然を楽しむもの、+αの活用方法・自己解放?・自己研鑽?について教えていただきました。

皆様のご協力で今学会をとどこおりなく終了出来たことに、スタッフ一同安堵と達成感を感じています。どうもありがとうございました。

実行委員長 岐阜県立多治見病院 美濃輪 縁



平成28年度日臨技中部圏支部病理細胞検査研修会

大垣市民病院 病理細胞診室 子安 光

平成 29 年 2 月 25 日(土)・26 日(日)に鈴鹿医療科学大学 JART 記念館で開催された、平成 28 年度中部圏支部病理細胞検査研修会に参加しました。今年の参加者は 100 人を超えており、当日は天気も良く絶好の研修会日和でした。

今回のテーマは「超音波穿刺吸引細胞診を学ぼう！— 乳腺・臍臓領域 —」「クロモグラニン A 免疫染色サーベイ」でした。

研修会 1 日目は、乳腺領域に関して 3 つ、臍臓領域 3 つの計 6 講演がありました。そのうちのひとつの「乳腺領域における穿刺吸引細胞診(FNA)の役割」を講演して下さった先生の施設では、細胞検査士がベッドサイドで穿刺直後の検体の処理を行い細胞が採れているかを判断するだけでなく、超音波も担当していると伺いました。採れた細胞が画像と合致しない時はその場で臨床側に feed back することで、穿刺部位や穿刺方法の変更を行うなどして検体不適正を減らすことにもつながります。より正確な診断結果を出すためにも、検査技師が重要な役割を担っていることが分かりました。そのためには、検体処理の技術や細胞像の見方だけでなく、画像分野でも幅広い技術や知識を身につけていかないといけないと思いました。

1 日目の講演後に情報交換会が開催されましたが、今回は参加せず、職場の先輩と 3 人で白子駅前のスペイン料理店で食事をしました。パエリアなどの美味しい料理を食べながら、先輩たちと普段出来ない話をゆっくりとすることができて嬉しかったです。駅前には他にもお洒落なお店がたくさんあったので、鈴鹿に立ち寄ることがあればぜひ行ってみてください。

研修会 2 日目は、乳腺・臍臓の細胞診標本 5 症例を鏡検した後、標本解説がありました。まだ自分自身細胞診標本は見慣れておらず難しく感じましたが、標本をみるポイントや鑑別すべき疾患、その見分け方などを詳しく説明していただき、とても勉強になりました。

その後、昨日に引き続き 7 つめの講演「乳腺・臍臓領域における免疫染色の活用と意義」があり、ランチョンセミナーでは「がん治療選択のためのコンパニオン診断薬と検査」についてお話していただきました。HER2 や EGFR、そして当院でも近々実施する予定の抗 PD-L1 抗体に関するも分かりやすく説明していただき、今後の参考になりました。

「クロモグラニン A 抗体サーベイ」では東北・関東・北陸・東海の計 77 施設の免疫染色結果を報告していただきました。抗体希釈倍率、抗体希釈経過時間、賦活化の有無が染色結果に影響を与える可能性が高いことが分かり、とても興味深かったです。

今回研修会に参加し、組織像や細胞像をしっかり勉強していかなければならないと感じました。そして、検査室の中だけの業務に満足せず、ROSE などの臨床との関わりのある検査もできるような技師になりたいと思いました。



平成29年度 臨床生理部門研修会

今年度も各部門研修会が始まりました。岐阜県臨床検査技師会のホームページから→「学術部」→「学術カレンダー2017」と進んで頂いて自分の見たい研修会の「案内 PDF」をクリックすると内容や参加方法がでできます。

今年度の臨床部門研修会は、7月1日に心電図・心エコー合同研修会、9月2日に神経生理研修会(実習を行なう)、12月9日に関節エコー研修会(ハンズオンを行なう)が予定されています。臨床生理部門は、神経生理、超音波、循環生理の3部門に分かれていますので、後1回ずつは研修会が開催される予定です。2回目の神経生理研修会は、日程は未定ですが脳波判読の予定です。みなさんでスケールを片手にディスカッションしながら脳波を読んでいきます。

学生の皆様は参加費無料ですので、興味のある研修会に参加して勉強してください。参加をお待ちしています。



昨年大垣市民病院で行われた実習風景です。神経伝導検査の実習です。上肢と下肢に分かれて検者になったり被検者になったり、真剣に取り組んでいます。

臨床生理部門長 石郷 景子(大垣市民病院)



THE 62ND NATIONAL CONGRESS OF JAPANESE SOCIETY OF LABORATORY MEDICINE
第62回日本臨床検査医学会学術集会
臨床検査の発展～豊かな医療への懸け橋～

施設紹介

岐阜大学医学部附属病院 検査部

当院は1875年(明治8年)、岐阜市西野町の西本願寺別院敷地内に公立病院及び附属医学校として開設、翌年に司町へ移転、その後120年余りを経て2004年に現在地(岐阜市柳戸)に新築移転されました。県下唯一の医学部附属病院、そして特定機能病院であり、中部地方で2番目に高度救命救急センターの認定を受けた他、難病、肝疾患、エイズ、がんなどの診療拠点病院にも指定されています。現在、21診療科、614床、職員数1244名、1日当たり外来患者数は1325人です。

検査部は48名(非常勤12名、再任用3名、パート職員7名含む)、男女比は4:5です。写真は当検査部部長の清島教授(病態情報解析医学)が学会長を務めました第62回日本臨床検査医学会学術集会終了後の検査部メンバーと、特別講演中の田中耕一氏(2002年ノーベル化学賞受賞)です。当検査部の強みの一つとして、学会発表や論文作成、各種認定取得への職員一人一人の意欲が高く、また、それを支援する指導環境や資料検索ツールなどが整っているということがあると思います。

この”強み“を最大限に生かし、今後も大学病院検査部としての使命(研究、教育、臨床)を果たしつつ、その一方で地域医療に貢献できる検査部を目指していきたく思います。

野久 譲

平成29年度 春季拡大研修会

今年のテーマは「移植」！

【日 時】 平成29年6月4日（日）
午前9時 受付開始 午前9時30分 開催
【会 場】 岐阜大学医学部記念会館 2階ホール
〒500-119 岐阜市柳戸1番1

特別講演 市民公開講座

『オートファジーと心疾患 —心不全治療への展望—』

岐阜大学大学院医学系研究科 循環病態学

講師 金森 寛充 先生

(一社)岐阜県臨床検査技師会
平成29年度 春季拡大研修会
市民公開講座

『オートファジーと心疾患
—心不全治療への展望—』

2017年
6月4日

受付開始 13:00
開演 / 13:20 終演 / 14:20

会場
岐阜大学医学部記念会館 2階ホール

講師 金森 寛充 先生
(かなもりひろみつ)
岐阜大学大学院医学系研究科 循環病態学



オートファジー という言葉は皆さん、一度は聞いたことがあると思います。

※人が生きてゆくためにどのような役割を担っているのでしょうか。
※医療への応用は可能となってきたのでしょうか。
※これからは誰もが関心を持つべき内容ではないでしょうか。

※来場者から抽選で7名の方に、血圧計・非接触式体温計・健康診断と検査がすべてわかる本のどれかをプレゼントいたします。
※一般市民の方が対象です。

参加費無料
駐車料金は無料になりますので、必ず駐車券を会場にお持ちください。

どなたにもわかりやすい内容です。
多くの市民の皆様のご参加をお待ちしております。

問い合わせ先
〒500-8384 岐阜市藪田南3-5-10 コスタ岐阜県庁前603号室 (一社)岐阜県臨床検査技師会事務所
春季拡大研修会係 (TEL058-275-5596)

< 輸血検査 研修会 >

『造血幹細胞移植と輸血部門の関わり』

岐阜大学医学部附属病院

輸血部 臨床講師 北川 順一 先生

< 血液検査 研修会 >

『造血幹細胞移植の進歩2017』

岐阜市民病院 血液内科部長 笠原 千嗣 先生

< ランチョンセミナー >

①『誰でも始められる免疫抑制剤のTDM～最新トピックを交えて～』

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社

LSマーケティング部 免疫・生化学グループ

生化学チーム 木内 伸栄 先生

②『移植時における薬物モニタリング』

積水メディカル株式会社 カスタマーサポートセンター

学術企画グループ 服部 和久 先生

★同時開催★
平成29年度
定時総会

発行所 (一社)岐阜県臨床検査技師会

〒500-8384 岐阜市藪田南3 丁目5 番地 10 コスタ岐阜県庁前 603 号

TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

発行責任者 兼子 徹

編集者

高崎 昭彦

松浦 康博

種村 久子

E-mail

giringi-office@giringi.jp